

平成24年度業務実績報告書添付資料

独立行政法人海技教育機構

添付資料一覧

- | | | |
|-------|--------------------|-----------------|
| 資料 1 | ： 人事交流実績 | (平成24年度) |
| 資料 2 | ： 教材等のアンケートの結果 | (平成24年度) |
| 資料 3 | ： 海技士国家試験合格実績 | (平成20年度～平成24年度) |
| 資料 4 | ： 各学校の資格取得に関する取組 | (平成24年度) |
| 資料 5 | ： 水先人国家試験合格実績 | (平成20年度～平成24年度) |
| 資料 6 | ： 各学校の資質教育に関する取組 | (平成24年度) |
| 資料 7 | ： 寮生活アンケートの結果 | (平成24年度) |
| 資料 8 | ： 保護者アンケートの結果 | (平成24年度) |
| 資料 9 | ： 海事関連企業への就職率 | (平成20年度～平成24年度) |
| 資料 10 | ： 就職に関する取組 | (平成24年度) |
| 資料 11 | ： 研修実績 | (平成24年度) |
| 資料 12 | ： 各学校の研修実績 | (平成24年度) |
| 資料 13 | ： 応募・入学状況 | (平成21年度～平成25年度) |
| 資料 14 | ： 各学校の募集活動に関する取組 | (平成24年度) |
| 資料 15 | ： 広報活動実績 | (平成24年度) |
| 資料 16 | ： 研究項目一覧 | (平成24年度) |
| 資料 17 | ： 研究発表一覧 | (平成24年度) |
| 資料 18 | ： 委員等派遣実績 | (平成24年度) |
| 資料 19 | ： 各学校の海事思想普及に関する取組 | (平成24年度) |
| 資料 20 | ： 体罰防止に関する提言 | |

人事交流実績 (平成24年度)

◎ 人事交流実績計

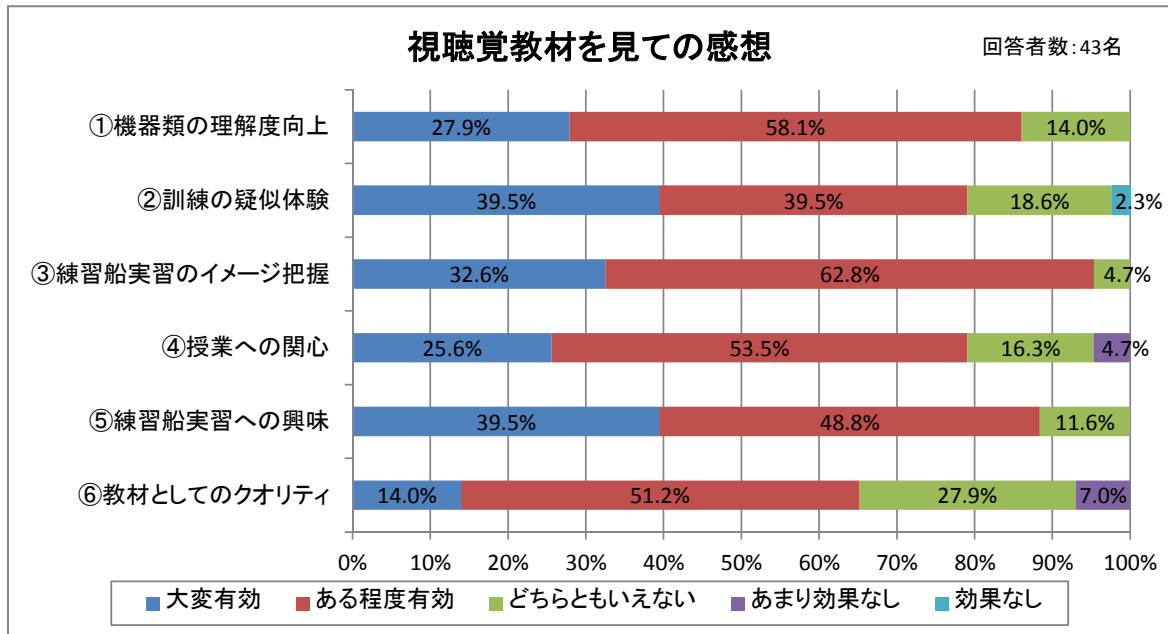
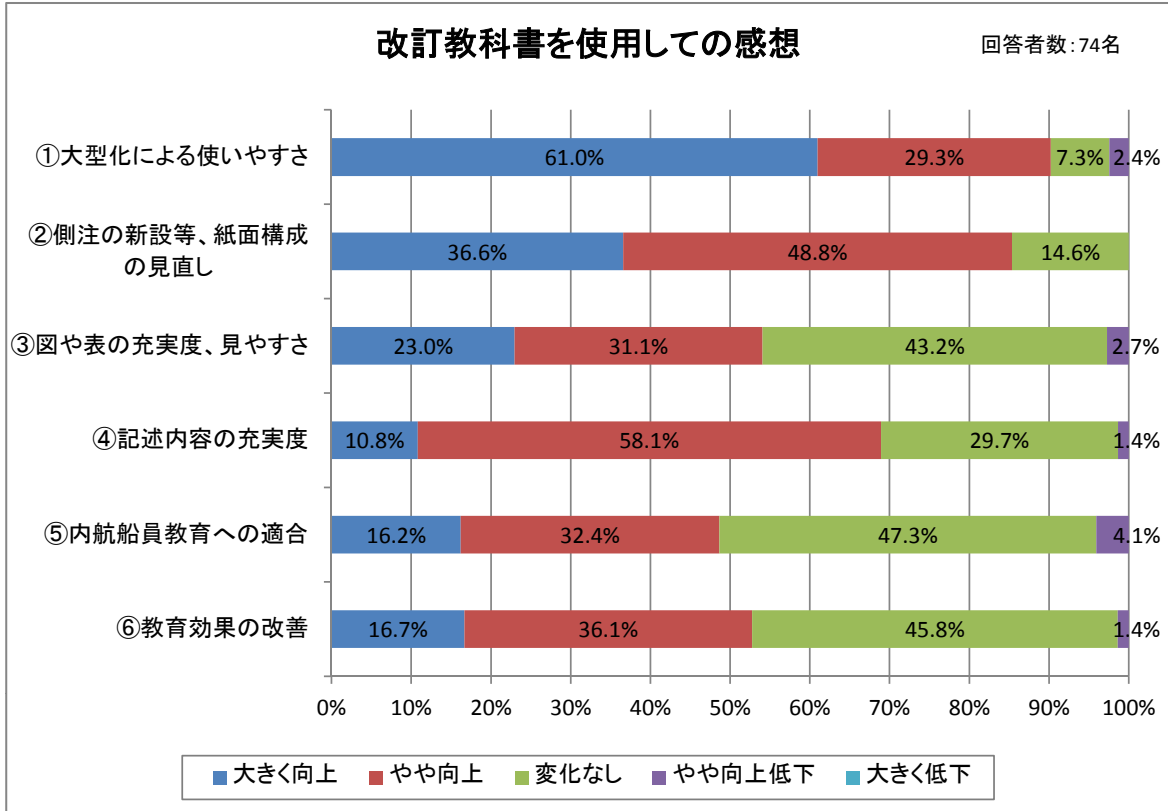
12名

受入元	部署等	人数
国土交通省海事局	海技課	1名
国土交通省海事局	総務課	1名
国土交通省近畿運輸局	大阪運輸支局和泉自動車検査登録事務所	1名
独立行政法人航海訓練所	練習船銀河丸(航海士)	1名
独立行政法人航海訓練所	練習船青雲丸(機関士)	1名
広島商船高等専門学校	練習船広島丸(航海士)	1名
計		6名

派遣先	部署等	人数
国土交通省海事局	海技課	1名
国土交通省近畿運輸局	海事振興部船舶産業課	1名
国土交通省神戸運輸監理部	海事振興部船舶産業課	1名
独立行政法人航海訓練所	練習船青雲丸(航海士)	1名
独立行政法人航海訓練所	練習船青雲丸(機関士)	1名
広島商船高等専門学校	練習船広島丸(航海士)	1名
計		6名

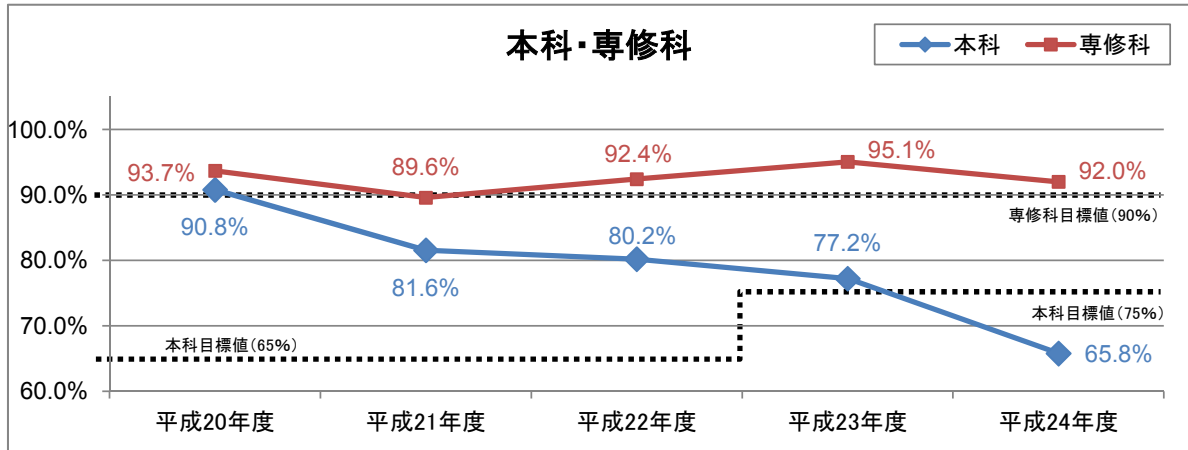
※ 人事交流の効果の例
・上級海技士資格取得のための乗船履歴の取得(派遣)

教材等のアンケートの結果 (平成24年度)

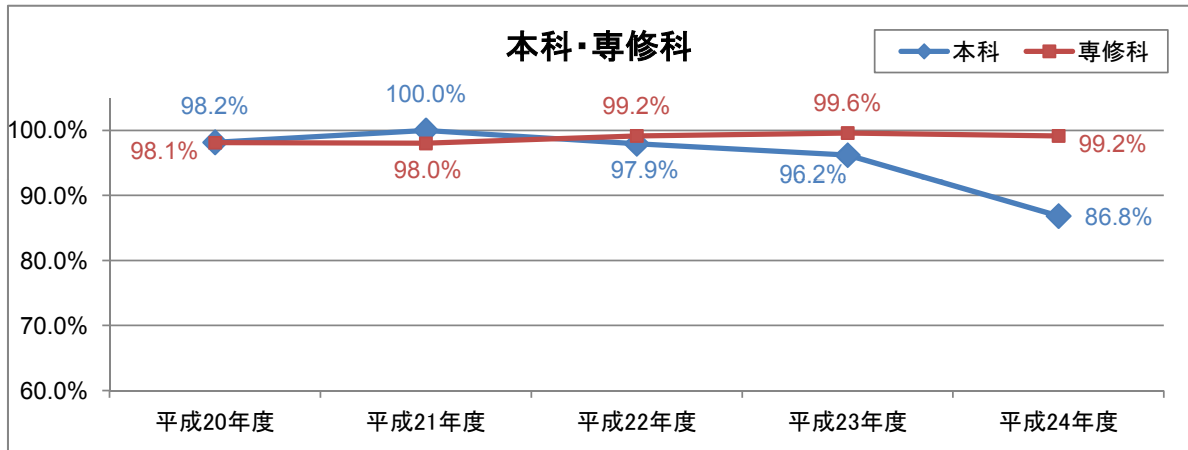


海技士国家試験合格実績 (平成20年度～平成24年度)

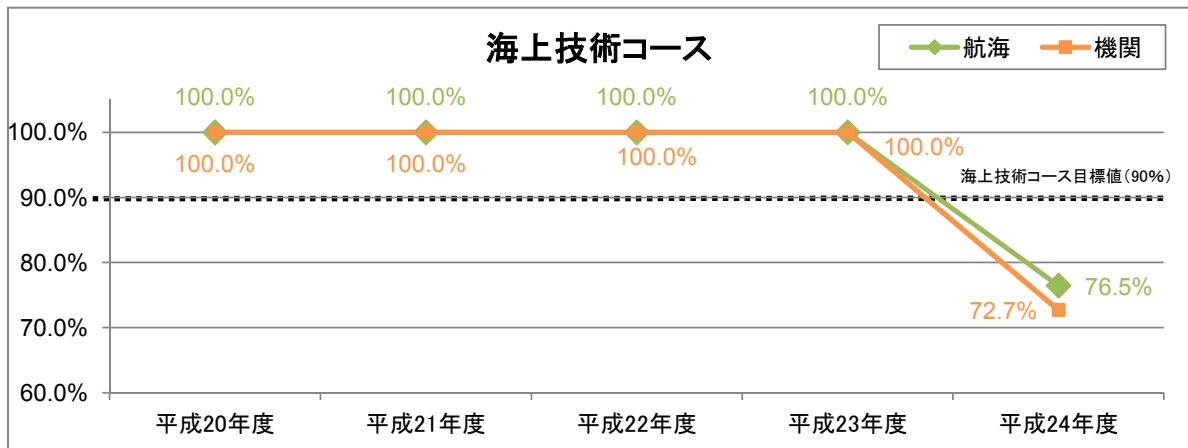
○四級海技士 … 航海・機関両方の合格率



○四級海技士 … 航海・機関いずれか又は両方の合格率



○三級海技士 … 航海又は機関の合格率



注) 目標値は、中期計画において定められたものである。

各学校の資格取得に関する取組 (平成24年度)

○口述試験対策の実施

・ 補講時、受験者の自覚を促すため、 スーツ姿での受講 により例年以上の 緊張感を維持	小樽校
・ 補講では、自分の実力を自覚させ、不得意部分を改善するため、単なる回答方法だけでなく、 服装や言葉遣い等 もその都度注意指導	小樽校
・ 教員を口述試験会場に派遣し、 注意事項等 を改めて指導	小樽校
・ 口述試験終了者に対し、出題に関するアンケートを行い、後の 受験生へアドバイス	小樽校
・ 補講・特別補講において、筆記による実力試験・講義・模擬口述試験後、その結果を受けて学習指導	館山校
・ 補講時、全員が 航機両方の合格を目指す よう指導	館山校
・ 模擬口述試験をレベルでのグループ分けにより、 きめ細かい指導 を実施	館山校
・ 補講では、学習範囲をあまり拡大せず、「練習船実習標準問題集」に絞って指導	館山校
・ 教員を口述試験会場に派遣し、出題の聞き取り調査結果を次の受験者に迅速に指導	館山校
・ 2日目以降の受験者に対し、試験場近くの会議室で初日の出題に関する解説	館山校
・ 補講では、受験心得について指導し、スムーズな回答ができるよう、模擬口述試験の回数を増やし、成績不良者に対して個別指導	唐津校
・ 携帯メールにより出題情報を集積整理し、後の受験者へ配信するシステムを構築	唐津校
・ 少人数に班分けし模擬口述試験を実施	唐津校
・ 講義では、口述試験での必要事項を指導し、合格レベルに達していない者に対し、課題を与えるなどの個別指導	口之津校
・ 模擬口述試験を、1グループ7～8名の5グループに分けて全教員で実施	宮古校
・ 1月末より、レベルごとに班分けし口述試験形式による補講を実施、3月には、口述試験に慣れるために実際の試験に沿った形の模擬試験を実施	清水校
・ 模擬口述試験を2回実施し、学生が口述試験の要領を得た後に自習時間を確保し、2回目はその成果を確認する位置づけで実施	波方校
・ 全教員が試験官役となり、実際の試験でタイプの異なる試験官への 口述解答対応力を強化	波方校
・ 教員による模擬口述試験を繰り返し実施	海大
・ 卒業後に臨時口述試験を設定実施により、卒業から試験までの期間短縮による 集中力の維持	海大
・ 卒業後、希望者に臨時口述試験までの在寮期間延長の措置をとり、試験直前までの 指導体制強化	海大

○本校校における補講等の実施

・ 口述試験前補講・模擬口述試験を2回、8日間の実施	小樽校
・ 口述試験前補講・模擬口述試験を4回(うち2回:追加補講)、16日間(うち7日:追加補講)の実施	館山校
・ 口述試験前補講・模擬口述試験を2回、10日間の実施	唐津校
・ 口述試験前補講・模擬口述試験を4回、12日間の実施(うち1回:口述試験直前に個別指導)	口之津校

※専修科・海上技術コースは、卒業後すぐに臨時試験を実施しているため、補講は実施できない。

○上級海技試験対策の実施

・ 受験生に必要なプリントを配り、放課後等に特別補講を実施	小樽校
・ 海技免状取得の重要性を教え、 上級試験受験対策講座 を学年を限定せずに実施	口之津校

○教材の工夫

・ 1年生2学期始めに「 四級海技士標準問題集 」を配布	唐津校
・ 乗船実習期間中に学習できるよう、卒業日に「 ポケット版精選四級問題集 」を配布	唐津校
・ 3年生当初に「 四級海技士口述試験標準問題(航海)及び(機関) 」を配布、本校作成テキスト「 精選55問 」と関連させて、最近の出題傾向及び解説	口之津校
・ 「 ポケット問題集(航海・機関両方) 」を作成し、全員に配布	宮古校
・ 航海訓練所より配布された問題集とは別に、 航海・機関両方の精選した問題集 を作成し、口述試験を不安視する学生に配布	宮古校
・ 乗船実習第3船目開始時に、「 口述試験対策問題集 」を配布し、実習の空き時間等を利用して取り組むよう指導	清水校
・ 早期から口述試験を意識した学習をするよう指導し、前記期末試験後に「 国家試験標準問題集 」を配布し、乗船実習期間中の空き時間も活用するよう指導	波方校
・ 学校独自の問題集 について、昨年度の臨時試験で出題された問題を挿入するとともに、航海については法令改正等の改訂	波方校
・ 過去10年程度の 国家試験口述問題を收集整理 し、教材として配布	海大

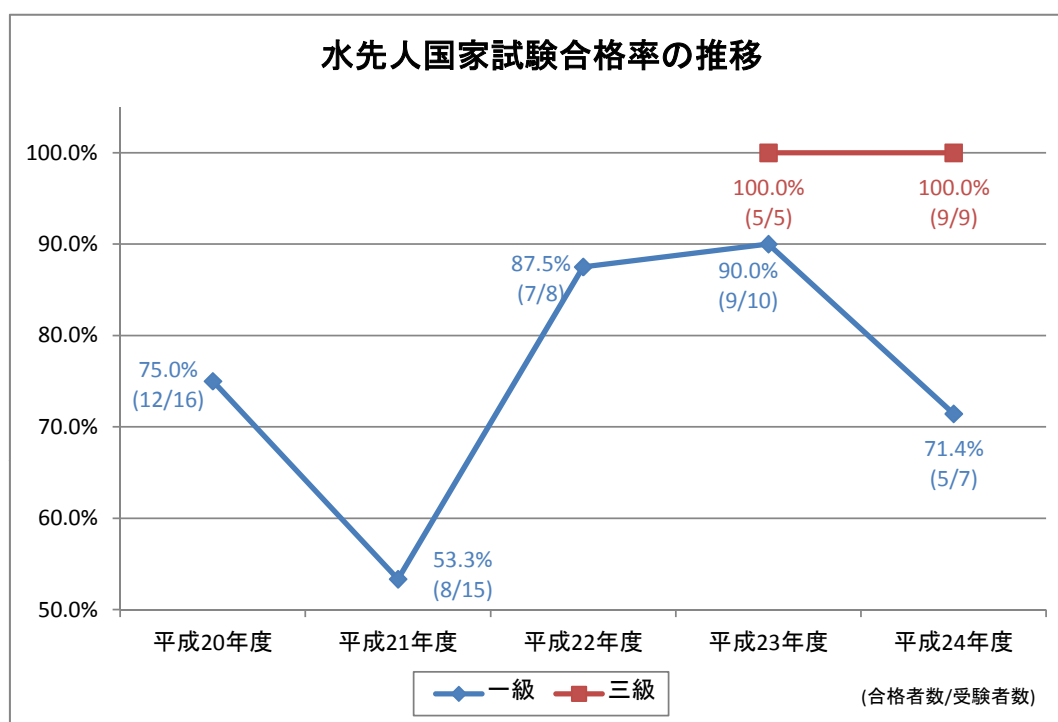
○受験前の対策

・ 受験申請手を指導	宮古校
・ 資格取得希望者に対し、教員が放課後にサポート	宮古校
・ 2年生に対し、1月授業開始時に、昨年度に実施した同じ問題で実力試験を実施し、乗船実習の成果を確認するとともに、各自の実力を把握し、学習指導の参考とし、レベルの低い学生を特別補講対象者とし指導強化	清水校

○学習意欲の向上

・ 上級海技試験(筆記)試験合格 は、就職活動における アピール材料 となることから受験を勧め、希望者には補講	館山校
・ 全学年に対し、「 四級海技士標準問題集 」に基づいた模擬口述試験を実施し、成績を発表することによる学習意欲向上	唐津校
・ 航機両方の免状を持つことの意義を説明し、 海技免状取得への意欲の高揚 を図った	波方校

水先人国家試験合格実績 (平成20年度～平成24年度)



- 参考
- ・ 水先コース(一級)は平成19年度より開講し、当該年度の合格率は63.2%である。(12名合格/19名受験)
 - ・ 水先コース(三級)は平成20年10月より開講し、養成期間は2年6月であるため、修了するのは平成23年3月31日となり、国家試験が翌年度に実施されている。

各学校の資質教育に関する取組 (平成24年度)

○寮生活の指導

・ 生徒寮各部屋の整理整頓の習慣づけを目的に、巡検時に各部屋の状況をチェックし、整理状況が良好だった部屋を発表し、賞品を授与	小樽校
・ 各部屋のチェックの実施により生徒の意識が変化し、寮全体の整理状況が改善	小樽校
・ 整理状況の良い部屋への表彰、整理状況の悪い部屋への繰り返しの指導により、寮全体が清潔化	館山校
・ 寮自習室の使用方法について、生徒中心に勉強しやすい環境にするよう指導を実施	館山校
・ 入寮時に寮生活のしおりを詳細に解説し、集団生活の基本を理解させ、自立した生活を実践	波方校

○生活習慣の指導

・ 教員に指摘される前に各日課を遂行するよう指導	小樽校
・ 責任感や社会性の涵養を図り、朝礼でパワーポイントを使用し、具体的な目標の周知やポスターを掲示	館山校
・ 当番への遅刻や雑な仕事をを行った場合、うやむやにしないようその都度注意を行い、きめ細やかな指導	館山校
・ ルールを遵守し義務を果たすことで団体生活が成立することを指導し、問題行動を防止を図った結果、退学者が減少	館山校
・ 喫煙防止教育として、地域医療施設的意思と協力し、禁煙プログラムを構築	館山校
・ 新入生に集団生活のマナーを指導するため、2泊3日のオリエンテーションを実施	唐津校
・ 点呼等の5分前集合、食事時間の各学年統合等、時間厳守のみならず余裕を持った行動が出来るよう日課を改善	唐津校
・ スローガンを掲げ、朝の挨拶運動及び校内外清掃活動を実施	口之津校
・ クラブ活動の活発化により、自立心を育成	口之津校
・ 規律遵守・時間厳守、遅刻や忘れ物に対して繰り返し躰を指導	口之津校
・ 寮での日課、毎日の掃除等基本的な生活習慣を身につけるよう指導	宮古校
・ 健康面、規律面、団体生活における一体感を育む等の観点から朝の体操を実施	宮古校
・ 新入生全員を対象に、入学直後に専門医に來校してもらい「禁煙指導講演会」を開催	清水校
・ 時間厳守、掃除の徹底を初めとした生活指導の一層の充実を図り指導	波方校

○委員会活動・諸行事等の指導

・ 教員指導の下生徒の主体性を生かしながら諸行事の運営	小樽校
・ 生徒会からの積極的な申し出により、近隣地区の除雪を教員の監督の下実施	小樽校
・ 生徒会が毎月目標を掲げて取り組むことで、生徒の実行力及び統率力を向上	館山校
・ 水泳大会、学校祭等の催しを生徒主体で企画、立案し、開催するよう指導	館山校
・ 5つの専門委員会を設け、学生全員を配属し任務を割り当てることで、自発性・責任感・公共心を育成	宮古校
・ 整備作業や除草作業の継続的な実施、委員会活動の活発化により公共心や協調性を養うとともに、良好な環境を維持	清水校

○精神面のケア

・ 外部カウンセラーによる相談を実施	口之津校
・ 相談用の投書箱の設置や学校カウンセラーによるカウンセリングを実施	清水校
・ 学生からの申し出がしやすいよう相談用の投書箱を設置	波方校
・ 本人の意思を尊重しながら、学校カウンセラーによりカウンセリングを受けさせるとともに、必要に応じて心療内科の受診を推奨	波方校

寮生活アンケートの結果 (平成24年度)

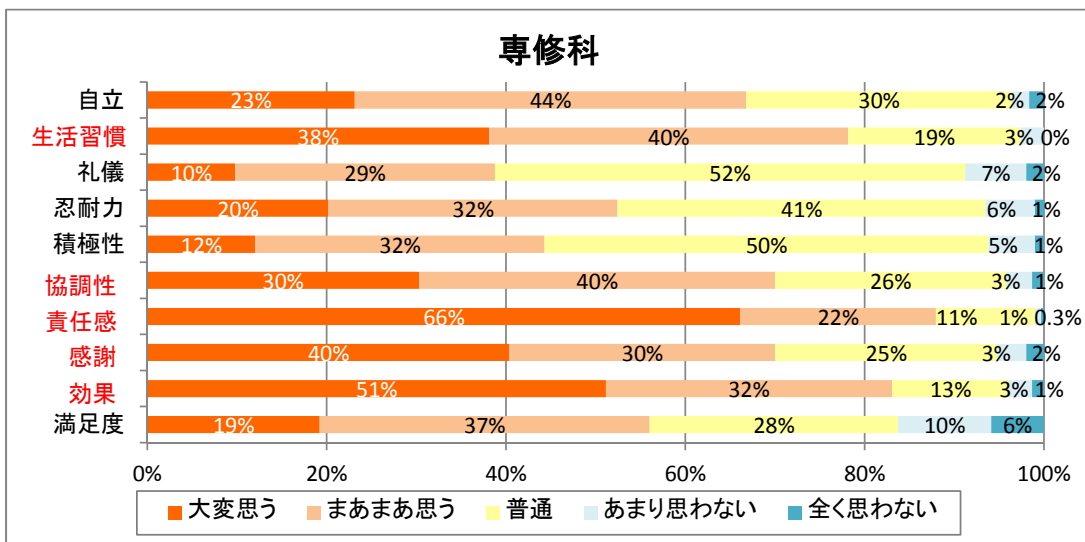
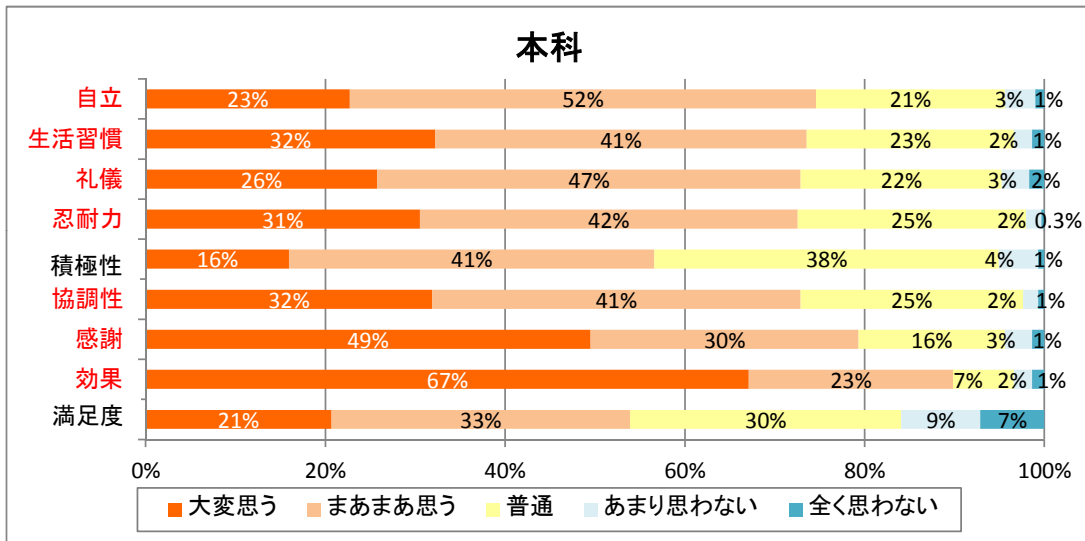
1. 実施時期：平成24年7月～平成25年2月

2. 回答者数：本科295名、専修科308名

3. アンケート結果

(1) 設問及び結果グラフ

- 問1(自立)：寮で生活するようになって、何でも自分でできるようになりましたか。
 問2(生活習慣)：寮で生活するようになって、規則正しい生活をするようになりましたか。
 問3(礼儀)：寮で生活するようになって、礼儀正しくなりましたか。
 問4(忍耐力)：寮で生活するようになって、がまん強くなったと思いますか。
 問5(積極性)：寮では、当番や係の仕事を進んでやっていますか。
 問6(協調性)：寮では、他の生徒(学生)と協力し、仲良くするようにしていますか。
 問7(責任感)：寮では、自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかると思いますか。
 問8(感謝)：寮で生活するようになって、家族のありがたさが分かるようになりましたか。
 問9(効果)：寮での生活の経験は、自分の将来に役に立つと思いますか。
 問10(満足度)：総合的に見て、寮での生活に満足していますか。



※ 赤字は「大変思う」+「まあまあ思う」が70%以上の項目

(2)寮生活に関する自由意見

① 良い点

	人数
・友達がたくさんでき仲良くなれる。	15名
・規則正しい、自立した生活ができる。	11名
・団体生活なので色々制限があり苦労するが、将来自分のためになる。	10名
・親のありがたさが分かる。	5名
・協調性を身に付けることができた。	2名

② 悪い点

	人数
・騒がしい時がある。	11名
・設置機器の台数が限られており、順番待ちをしなければならない。	6名
・寮内の決まり事を守らない人がいる。	6名
・一日が時間に縛られている。	5名

③ 改善して欲しいこと

	人数	
日課関係	・寮の規則を改善してほしい。	54名
	・休日日課の変更をしてほしい。	45名
	・消灯や起床時間を遅くしてほしい。	34名
	・点呼、巡検の仕方を改善してほしい。	14名
給食関係	・食事を改善してほしい。	11名
	・パン食を無くしてほしい。	8名
設備関係	・設備を拡充させてほしい。	35名
	・暖房方法や暖房設備を改善してほしい。	24名
	・洗濯機、乾燥機の増設及び新替をしてほしい。	15名
	・トイレを改善してほしい。	13名

④ その他

	人数
・エアコンが1年を通して使用できるようになり、寮生活環境が改善された。	15名
・自転車を使えるようにしてほしい。	6名
・もっと規則や指導を厳しくしてほしい。	4名
・自動販売機を改善してほしい。	3名

4. 結果に対する各校の考察(抜粋)

	学校名
・寮生活の経験が長くなるほど自立する力が育っていると、生徒は自覚している。	館山校
・割り当て実施している当番や係の仕事を通して、生徒の責任感が涵養されている。	館山校
・寮生活の経験を船員としての将来に結びつけて、効果的であると考えている生徒が多い。	館山校
・団体生活の厳しさの中で満足している学生が多く、概ね良好な寮生活であると感じる。	清水校
・項目により評価が低いのは、アンケート実施時に先輩がいなかったためと思われる。	清水校
・社会で必要な「責任感」を持つよう指導してきたことが反映され、良い評価が得られた。	波方校
・設備に対する不満については、予算の問題もあるため、今後の検討課題と考える。	波方校

5. 考察を踏まえた各校の改善状況(抜粋)

	学校名
・当番や係の仕事を進んで行き積極性を身に付けさせるために、それぞれの仕事の必要性を考えさせるなど生徒が自ら考え自ら実行するように工夫して指導する。	館山校
・社会性の涵養に結び付けた生活目標を達成させるよう、指導を展開していきたい。	館山校
・生徒の自主的活動のため、寮玄関ロビーに生徒用掲示板を設置する。	館山校
・団体生活をとおし、社会に出る際必要な礼儀、挨拶などがきちんとできるよう指導していく。	口之津校
・「海上技術学校生徒心得」に基づき、「団体生活に慣れること」「規律遵守・時間厳守すること」「連帯感・一体感を養成すること」の指導方針の周知・浸透を推進した。	口之津校
・外部カウンセラーによる相談受付を実施し、生徒が話を聞いてもらえる精神的ケアの場を設けた。	口之津校
・朝の集合点呼や巡検時の報告等を通して、節度ある態度や礼儀正しさ、そして元気に挨拶するように指導した。	清水校
・掃除については、限られた時間で効率よく行うよう習慣付けさせることにより忍耐力を養い、週1回の校内作業やボランティア活動を利用して協調性を意識させた。	清水校
・寮内リビング等の共有物品に対して個々の管理担当者を決め、公共性や責任感を養うことを目標として掲げた。	清水校
・時間の経過により、一斉指導から個々の特性を見いだした指導へと切り換えた。	清水校

保護者アンケートの結果 (平成24年度)

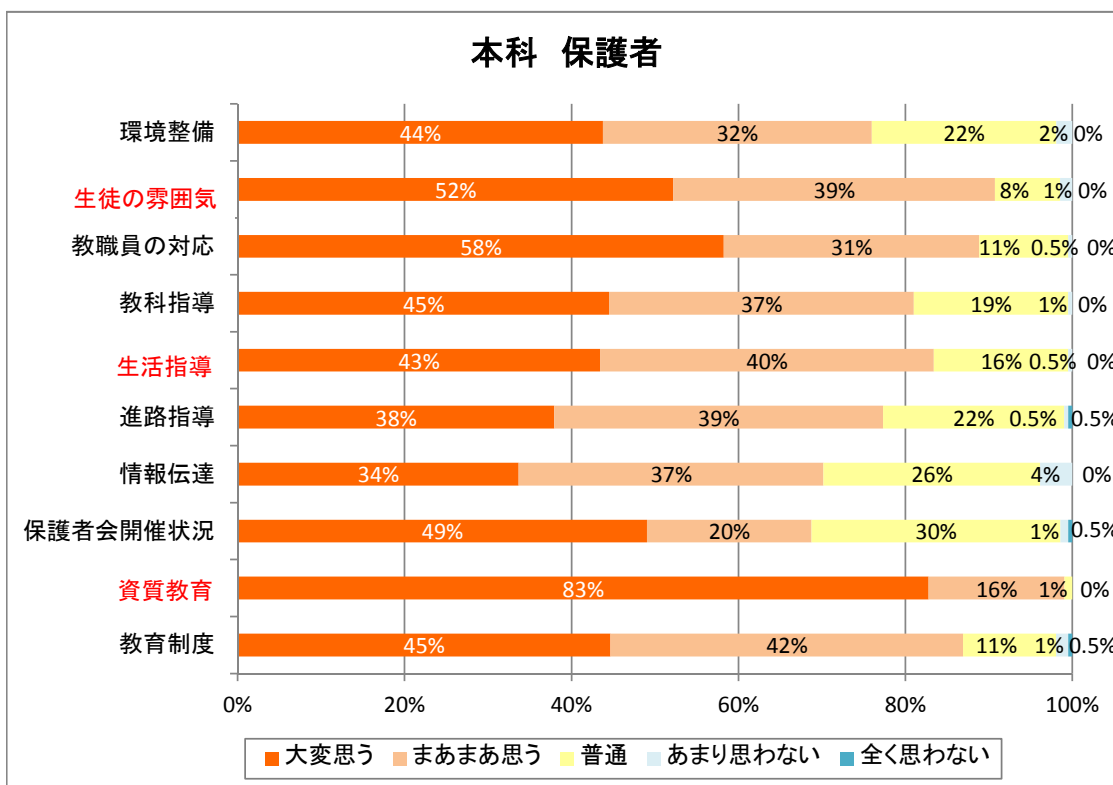
1. 実施時期：平成24年6月～平成25年2月

2. 回答者数：218名

3. アンケート結果

(1) 設問及び結果グラフ

問1(環境整備):	学校は清掃が行き届き、よく整備されていると感じますか。
問2(生徒の雰囲気):	生徒は挨拶ができ、明るく健全な雰囲気が感じられますか。
問3(教職員の対応):	教職員の対応は誠実で、信頼できると感じますか。
問4(教科指導):	教員は、授業に熱心に取り組み、分かりやすい授業をしていると感じますか。
問5(生徒指導):	学校は、生徒指導に熱心に取り組み、その成果が表れていると感じますか。
問6(進路指導):	就職や進学に関する情報提供や指導が、適切に行われていると思いますか。
問7(情報伝達):	学校からの情報は、学級通信やHP等により、適切に家庭へ伝えられていると思いますか。
問8(保護者会開催状況):	保護者会や参観日の開催回数や内容に満足していますか。
問9(資質教育):	寮生活や実習実技など 在学中の経験が、社会に出ていく上で役に立つ と思いますか。
問10(教育制度):	学校は、海技士資格、高卒同等資格などの各種資格取得制度について、その重要性の説明や補講などによる指導に努めていると感じますか。



※ 赤字は資質教育に関する項目

(2)自由記載欄の意見

① 入学後の子どもの変化

	人数
・精神面で、遅くなり、大人になってきた。	24名
・家族の大切さを知り、やさしくなった。	12名
・自立してきたように思う。	11名
・明るくなった。	6名
・あいさつ、言葉遣いが良くなった。	6名
・積極性が身についてきている。	5名
・時間を厳守出来るようになった。	4名

② 学校に期待していることや改善して欲しいこと

	人数
・実践的な教育をして欲しい。	8名
・今の状態(学習、生活、進路)を維持してもらいたい。	7名
・ホームページをもっとUPし、充実させて欲しい。	5名
・多くの優秀な船員を育てていてもらいたいと思う。	5名
・生徒たちに親身に接して頂き感謝している。	5名
・宿題や補習授業等、学習面をしっかりやって欲しい。	4名
・親の目の届かないところで何をするかわからないので、厳しく指導してほしい。	2名

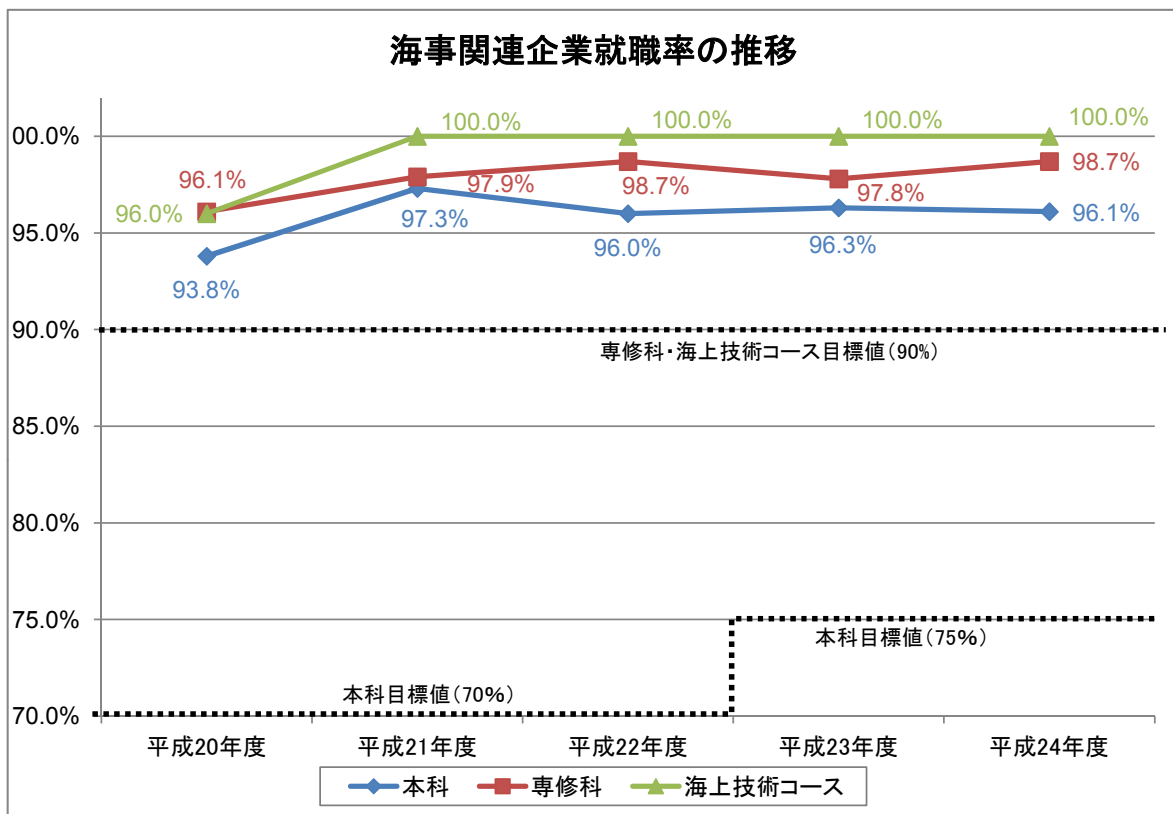
4. 結果に対する各学校の考察(抜粋)

	学校名
・ほとんどの項目で平均点が向上しており、教育業務の取り組みが保護者に認められていると考える。	小樽校
・「もっと勉強してほしい」「資格を取ってほしい」と、より高い目標達成を願う保護者がいる。	館山校
・保護者会において、座学ではなく、実習授業の見学希望を持つ保護者がいる。	館山校
・学校、寮生活の情報発信やホームページ上での写真掲載の少なさに対する改善要望が多い。	唐津校
・授業参観を楽しみにしている保護者が多く、土日開催増とともに、質疑応答の実施要求があった。	唐津校

5. 考察を踏まえた各学校の改善状況(抜粋)

	学校名
・献立表を希望者に配布するとともに、ホームページに掲載し寮生の保護者にも閲覧できるようにした。	小樽校
・HPの更新回数を増やすとともに、資格試験日程等を記載した学級通信を各学期2回以上送付する。	館山校
・保護者に対する学級通信を今年度中に3学年合計17回発送し、学校から情報発信できた。	館山校
・進路指導は、3者間の連絡を密にし、きめ細やかに対応して、保護者と生徒の希望調整を適切に行う。	館山校
・昨年度の保護者アンケート後、4点の生徒指導(①個々の生徒の些細な変化を見逃さないよう注意深く観察する。②引き継ぎノートへ詳細に記載する。③朝のミーティング等で情報の共有を図る。④必要な対処の確認を行いながら、教員全員が連携したMTP(目標達成プログラム)による指導指針を定め一貫性のある指導を続ける。)における改善策を図り、今年度も継続した結果、退学者が0となり保護者の期待に応えることができた。	館山校
・ホームページを抜本的に改良し、内外に向けての情報発信力の強化に努める。	唐津校
・各学年少なくとも1回は土曜日に保護者会を開催し、2年生2回目の保護者会から、海運界や船員生活についての広報用DVD視聴の機会を作った。	唐津校
・今年度試行した保護者会の土曜日開催については、参加者が多く好評であった。	唐津校
・保護者会において、実技の参観や保護者の体験乗船等、内容の充実を図り、概ね好評であった。	唐津校
・日頃から保護者との連絡を密にして、学校への理解と協力を得られるように努めた。	口之津校
・学校要覧を想定した「本校の教育活動について」を作成し、保護者会や三者面談での説明資料に役立てた。	口之津校

海事関連企業への就職率 (平成20年度～平成24年度)



就職に関する取組 (平成24年度)

1. 機構全体の取組

○就職説明会等への参加・・・1,418名

開催名	主催	参加人数	参加校
海技者セミナー 札幌	北海道運輸局	63	小樽校
海技者セミナー 東京	関東運輸局	35	館山校
		18	清水校
海技者セミナー 神戸	神戸運輸監理部	10	唐津校
		43	宮古校
		90	波方校
		27	海大
		105	清水校
海技者セミナー 福岡	九州運輸局	38	唐津校
		35	口之津校
		10	清水校
海技者セミナー 仙台	東北運輸局	56	宮古校
海技者セミナー 静岡	中部運輸局	130	清水校
海技者セミナー 今治	四国運輸局	95	波方校
東北運輸局講演会	東北運輸局	42	宮古校
全国内航タンカー海運組合講演会	全国内航タンカー海運組合	63	小樽校
全国内航タンカー海運組合講演会		87	唐津校
全国内航タンカー海運組合講演会		42	宮古校
全国内航タンカー海運組合講演会		112	清水校
説明会(内航船員の心構え)	関東地方船員対策協議会	67	館山校
中部地方船員対策連絡協議会懇談会	中部地方船員対策連絡協議会	21	清水校
船員就職セミナー		112	清水校
自衛隊説明会	自衛隊	27	小樽校
会社説明会(内航海運について)	スミセ海運(株)	36	館山校
会社説明会	寄神建設(株)	38	唐津校
会社説明会	岩崎汽船(株)	16	海大

○職員による会社訪問・・・68回、493社(新規開拓17社を含む)

訪問先	訪問者	訪問回数	訪問社数	
北海道・東京・大阪・兵庫	小樽校	指導課長	5	50
東京		教頭	1	3
東京・横浜・神戸・大阪・千葉	館山校	指導課長	6	31
東京		3年副担任	1	9
横浜		教頭	2	3
横浜		2年副担任	1	1
東京		2年担任	1	1
東京・神奈川・兵庫・徳島・愛媛・香川・広島・岡山・大分・福岡・長崎・鹿児島	唐津校	指導課長	7	69
東京		3年担任	1	8
長崎・佐世保		2年担任	1	9
長崎市・佐世保市・横浜市・東京都・福岡市・北九州市・大分市・熊本市・鹿児島市・鹿屋市・周南市・広島市・福山市・神戸市・大阪市	口之津校	指導課長	6	100
新潟・函館・横浜・東京	宮古校	教頭	4	28
横浜・神戸・大阪		学生課長	3	25
東京・横浜・静岡・大阪・神戸	清水校	学生課長	6	55
東京・横浜・大阪・北九州・博多・下関・広島・岡山	波方校	学生課長	4	40
神戸		2年担任	1	4
東京・神奈川・大阪・兵庫・山口・福岡・長崎	海大	学生課長	9	33
		学生課主査		
神奈川・福岡・東京・兵庫	本部	募集就職課長	8	19
静岡		募集就職課主幹	1	5

○海事関係団体・海運会社等との懇談会・・・70回

主な相手方	回数	学校
日本船主協会、津軽海峡フェリー(株)、羽幌沿海フェリー(株)、他海運会社多数	16	小樽校
日本船主協会、関東地方船員対策協議会、スミセ海運(株)、他海運会社多数	7	館山校
日本船主協会、九州地区船員対策連絡協議会、他	7	唐津校
日本船主協会、九州地区船員対策連絡協議会、他	4	口之津校
日本船主協会、全国内航タンカー海運組合、宮古海上保安署、他海運会社多数	24	宮古校
日本船主協会、中部地方船員対策連絡協議会、全国内航タンカー海運組合	5	清水校
日本船主協会、四国地方船員対策連絡協議会、全国内航タンカー海運組合、他	5	波方校
全国内航タンカー海運組合、近畿内航船員対策協議会	2	海大

○求人依頼文書発送・・・532社(新規開拓16社を含む)

○業界紙への広告掲載・・・2回(内航海運新聞)

○内航船乗船体験・・・体験者79名、受入社数41社、受入隻数52隻

船種	体験者数	受入社数	受入隻数	学校
RORO船、タンカー	2	2	2	小樽校
RORO船、タンカー、貨物船、石灰石運搬船	8	7	7	館山校
RORO船、タンカー、貨物船、自動車運搬船	7	7	7	唐津校
RORO船、タンカー、セメント船	6	6	6	口之津校
RORO船、タンカー、貨物船	7	5	6	宮古校
RORO船、タンカー、貨物船、石灰石運搬船、他	22	18	20	清水校
RORO船、タンカー、貨物船、石灰石運搬船、他	27	21	23	波方校

※同一の船舶に、別の生徒・学生が乗船していることから、受入社数及び受入隻数は合計値が合致しない。

2. 学校毎の取組

○就職情報の提供

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大
いつでも誰も見られるよう最新の求人情報一覧を職員室前掲示板等に掲示	○	○	○	○	○			
会社情報をいつでも探せるようインターネットに接続したパソコンを寮及び図書室等に常設、使用するよう指導	○		○		○	○	○	
就職相談室及び就職コーナーを設置			○					○
就職意識の向上を図り、教室にも就職情報を常設				○				
乗船実習中は練習船内のパソコンを利用し最新情報を送付					○	○	○	
保護者と共通の認識を持てるよう、保護者会等の来校時を活用し三者面談を実施	○	○	○	○				

○生徒による会社訪問及び乗船体験等の参加

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大
生徒自身の印象付け、会社情報収集等のための早期の会社訪問を推奨		○	○					○
夏期、冬期休暇を利用した会社訪問の推奨						○	○	
大型フェリーに乗船し、荷役及び機関取扱等の体験やサービス部門のアルバイトをとおして船内生活及び職場を体験	○			○				
自己開拓したフェリー会社の協力を得て体験乗船を実施					○			
成果の公表及び情報の共有を目的とし、乗船体験及び職場体験後に報告会を開催				○				

○就職意識の涵養及び向上

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大
就職に対する意識向上を図り、海技者セミナーに参加	○	○	○	○	○	○	○	○
進路希望調査の実施		○	○		○	○	○	
卒業生による職務内容や船内生活等の講話を実施	○		○				○	
海事に関する講話及び見学会を実施			○	○			○	○
同級生の意欲向上を図り、内定した生徒及びその会社名を掲示	○							
授業内容に関連して就職に関することを説明	○							
会社訪問心構え、入社までの過程等々の就職ガイダンスを実施						○		
就職に対する個別指導の強化を図り、個人面談を実施	○					○		

○ミスマッチ防止対策の実施

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大
・ 学生と担任、学生課長との間のコミュニケーション強化							○	
・ 「内航船員になるためのセルフチェックシート」を使用し、船種や就労体制等を自己分析						○		
・ 積極的な会社訪問					○			
・ 内航船社の職場の現場をよく知るため、職場体験及び内航船乗船体験を推奨及び参加	○	○	○	○	○	○	○	

○就職試験対策の実施

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大
・ 模擬面接試験の実施により面接態度、言葉遣い等をアドバイス	○				○			
・ SPIの問題集購入及び設置、SPI試験を実施	○					○		
・ 集団面接を繰り返し練習し、「個人の癖」等をチェック			○					
・ 卒業生や先に就職試験を終えた学生の報告書を参考資料として活用					○		○	
・ 希望者に補講を実施				○				
・ 学校独自で作成した受験マニュアルを配布し、面接練習等で活用		○	○		○		○	
・ 面接試験の傾向をまとめ、参考用として配布				○	○			
・ 落ち着いて入社試験に臨めるよう、入社前に担当者と面談することが可能な海技者セミナーに数回参加			○					

○その他就職指導

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大
・ 就職活動で良いアピール材料となる上級試験及び資格取得を指導		○						
・ 船社が求める船員としてふさわしい資質の涵養に努めるべく、生活の基礎事項の重点指導による躰教育を実施				○				

研修実績 (平成24年度)

1. 教員

研修名	開催場所	日数 (日)	人数 (名)	区分
内航船乗船研修	内航海運会社の社船	6~8	3	外部研修
ホームページ研修(応用編)	海技教育財団	2	7	外部研修
BRM研修	海技大学校	3	7	内部研修
平成24年度小型教員研修	国立清水海上技術短期大学校等	2~3	33	内部研修
平成24年度第1回ファースト・ステップ研修	海技教育機構本部	3	13	内部研修
平成24年度セカンド・ステップ研修	海技教育機構本部	3	14	内部研修
平成24年度第2回ファースト・ステップ研修	海技教育機構本部	3	2	内部研修
生徒・学生指導の改善に関する研修	海技教育機構本部	1	11	内部研修
合 計 (延べ人数)			90名	

2. 事務員

研修名	開催場所	日数 (日)	人数 (名)	区分
平成24年度中堅係長(Ⅱ期)研修	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部研修
平成24年度公文書管理研修Ⅱ(第1回)	独立行政法人公文書館	3	1	外部研修
第31回政府出資法人等内部監査業務講習会	会計検査院安中研修所	5	1	外部研修
行政スキル[基礎]研修	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部研修
企業会計[基礎]研修	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部研修
ホームページ研修(応用編)	海技教育財団	2	3	外部研修
平成24年度第1回ファースト・ステップ研修	海技教育機構本部	3	3	内部研修
合 計 (延べ人数)			11名	

外部研修人数	18名
内部研修人数	83名
合 計	101名

各学校の研修実績 (平成24年度)

A	学校管理運営上必要とされる研修
B	教育業務の維持に有用な資格取得のための研修
C	教員の教育の質の向上のための研修

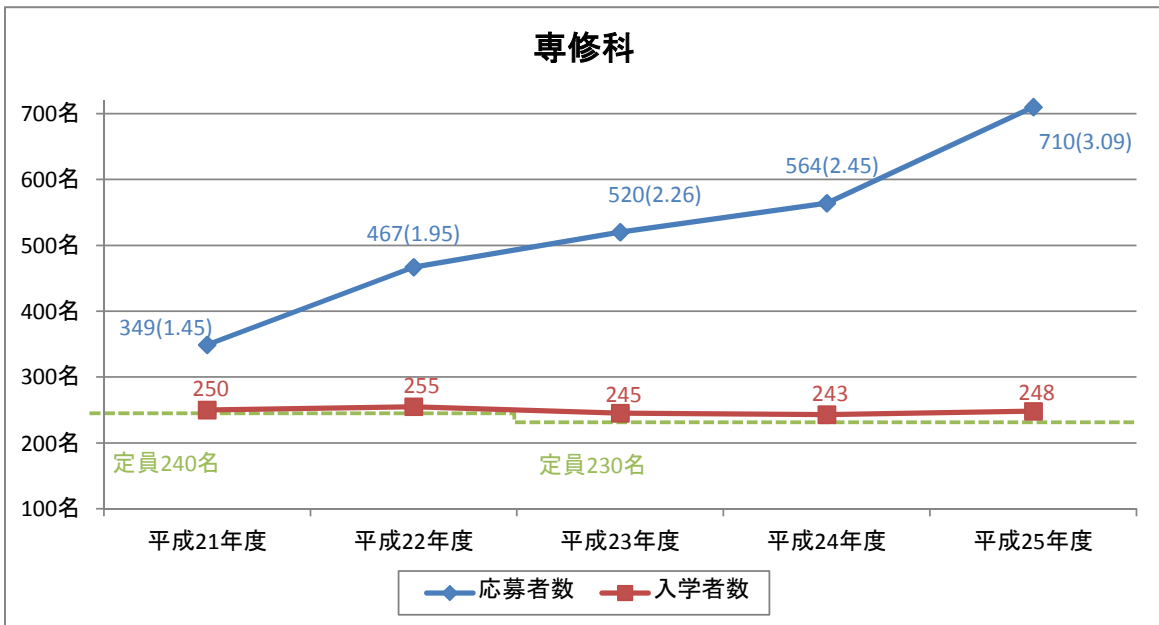
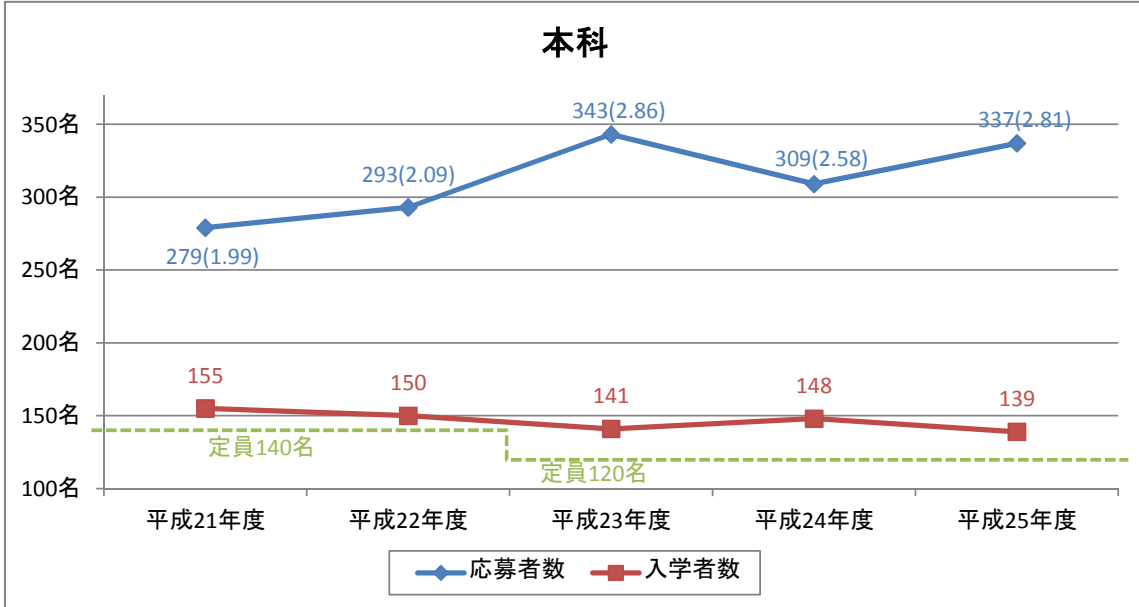
○外部研修

学校名	研修名	日数	人数	A	B	C
小樽校	ガス溶接講習	2	1		○	○
館山校	アーク溶接特別教育	3	1		○	○
	自由研削砥石取替等業務特別教育	1	1	○	○	○
	特別管理産業廃棄物監理責任者講習会	1	1	○		
	第二級陸上特殊無線技士講習会(短縮コース)	1	1	○	○	○
	第三級陸上特殊無線技士講習会	1	1	○	○	
	千葉県暴力団排除条例に基づく少年健全育成の推進に向けた説明会	1	1			○
	サイバー犯罪に関する講演(館山警察署管内学校警察連絡委員会研修会)	1	1	○		○
	エイズ・性感染症対策講習会	1	1			○
	禁煙指導者研修会	1	1			○
	給食施設管理者・従事者研修会	1	1	○		
給食施設管理者・栄養士研修会	1	1	○			
唐津校	エクセル研修	1	1	○		○
	初めてのWebページ作成講座	2	1	○		○
	インターハイ ヨット競技 事前視察研修(石川県)	7	1			○
	船員法改正研修	0.5	1	○		
	防火管理講習	2	1	○		
宮古校	普通救命講習Ⅰ・AED一般普及講習	1	4	○		
	応急手当普及員養成講習会(再講習会)	1	1	○		
清水校	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習	1	1	○		
	自由研削砥石研修	1	1	○	○	○
	第三級陸上特殊無線技士講習	1	1	○	○	
	ガス溶接技能講習	2	1		○	○
波方校	ガス溶接講習	1	1		○	○
	教育研修(薬物乱用防止)	1	1			○
	甲種防火管理新規講習	1	1	○		
海技大学校	ボイラ取扱技能講習	2	1	○	○	
	自由研削砥石特別教育講習	1	1	○	○	○
	玉掛け技能講習	3	1		○	○
	床上操作式クレーン運転技能講習	3	1		○	○
	ECDIS訓練講師研修(Type)	2	5		○	○
	船員教育者に対する海事英語研修(於:マニラ)	13	2		○	○
		計	40名	19	15	20

○校内研修

学校名	研修名	日数	人数	A	B	C
小樽校	練習船機器類取り扱い研修	3	2			○
	実習機器類操作研修	2	2			○
	座学授業見学研修	3	1			○
館山校	新型インフルエンザ研修	1	6			○
	生徒の叱り方研修	1	10			○
	練習船操船研修	1	9			○
	救命胴衣点検研修	1	10			○
	火災警報装置取扱研修	1	14			○
	ロープワーク校内研究会	1	5			○
	アーク溶接校内研究会	1	4		○	○
唐津校	ガス溶接講習	3	2		○	○
口之津校	小型船舶操縦研修	1	3		○	○
	ARPA操作研修	1	3			○
宮古校	校内伝馬船操船研修	1	2			○
	高校訪問PR研修	1	3	○		
	校内練習船操船研修	1	3			○
	校内教習艇操船研修	1	2			○
	ワイヤーアისプライス研修	1	1			○
清水校	新採用者研修	6	4	○		○
	小型実技教員研修	3	3			○
	ホイッピング研修	1	6			○
	校内練習船操船研修	1	11			○
	内燃総合実験装置研修	1	7			○
	燃料弁開放研修	1	5			○
	油清浄機開放研修	1	5			○
	クロスロープ研修	1	7			○
	レーダーARPAシミュレータ研修	1	6			○
	冷凍機シミュレータ研修	1	7			○
	シュートガン研修	1	7			○
	ディーゼル機関シリンダヘッド開放研修	1	7			○
油圧装置研修	1	7			○	
波方校	校内練習船操船研修	1	4			○
	校内小型船舶操艇研修	2	6			○
	実習機器類操作研修	2	6			○
海技大学校	ECDIS訓練講師研修(2回)	5*2	4		○	○
	溶接研修	4	1		○	○
	ECDIS訓練	5	1		○	○
	練習船乗船研修	2	1			○
	SSO講習	2	2		○	○
	安全運航に関わる漁船乗船研修	1	9			○
	海事教育者に対する講師研修	2	22		○	○
計			220名	2	8	40

応募・入学状況
(平成21年度～平成25年度)



注1) ()内は応募倍率である。

各学校の募集活動に関する取組 (平成24年度)

○学校訪問・・・3,034校(中学校:1,840校 高等学校:1,194校)

・ 春と秋2回同じ教員が訪問し、進路担当者との信頼関係を構築	小樽校
・ iPADIによるプレゼンテーションを実施	小樽校
・ 本人の写真・就職する会社の船舶の写真を掲載した報告書を作成し、春期の中学校訪問時に持参	小樽校
・ 小樽校・宮古校が協力し、小樽校は道内の高校、宮古校は岩手・青森の中学校を訪問	小樽校 宮古校
・ 専修科PRによる県内の高等学校を訪問し、専修科校のPRを実施	口之津校

※上記の他に、211校(本部職員:74校 外部委託職員:137校)訪問

○体験入学・オープンキャンパスの実施・・・30回(延べ946名参加)

・ 学校見学については、希望があれば平日休日を問わず受入	小樽校
・ 10/1「FMからつ」に生徒会役員4名と教員1名出演し、オープンスクール参加を呼びかけ	唐津校
・ 寄港中の銀河丸・海王丸見学会とオープンキャンパスを抱き合わせた企画	清水校

○学校説明会への参加・・・40回

・ 依頼のあった中学校に全て参加	小樽校
------------------	-----

○新聞・雑誌・広告等による広報・・・362回

・ 路線バスの映像広告による放映(4月～10月【7か月】)	小樽校
-------------------------------	-----

○学校案内等の送付・・・延べ30,439箇所

・ 唐津校・口之津校が協力し、配布先を振り分け、両校の学校案内を送付	唐津校 口之津校
------------------------------------	-------------

○その他

・ 卒業生の母校へ、卒業(修了)報告及び就職先についての文書を送付	唐津校
・ 近畿運輸局主催の「ジョブカフェOSAKAでのセミナー」に参加	清水校
・ 短期大学校に教員を派遣し、特別講義及び学校紹介により応募者増加を図った	海大
・ 近畿運輸局主催の「近畿内航船員対策セミナー」に出席し、講演とともに、教育内容・取組を紹介した	海大

広報活動実績 (平成24年度)

	学校訪問(校)		体験入学・ オープンキャンパス (回)	学校説明会 (回)	新聞・ 雑誌等 (回)	学校案内 送付 (箇所)	体験航海 (回)
	中学校	高校					
小樽校	677	5	3	5	19	1,859	4
館山校	507	0	3	1	10	4,536	13
唐津校	455	0	2	5	151	1,656	4
口之津校	172	4	2	0	149	3,598	8
宮古校	29	438	4	13	14	2,116	3
清水校	0	318	5	14	11	6,090	6
波方校	0	429	5	2	3	3,847	6
海大	0	0	6	0	5	6,737	2
計	1,840校	1,194校	30回	40回	362回	30,439箇所	46回

* 学校訪問では、上記の他に、本部及び外部委託職員による高校訪問(211校)がある。

参考:平成23年度実績

合計	1,678校	1,255校	28回	41回	292回	34,133箇所	51回
----	--------	--------	-----	-----	------	----------	-----

研究項目一覧 (平成24年度)

[重点研究（平成22年度から）]

類	研究テーマ名	研究期間※
E	海技者育成における教育・訓練資機材のあり方に関する研究	H22.4～H26.3
E	船員教育の高機能化に関する研究	H22.4～H26.3

[一般研究（平成22年度からの継続研究及び平成24年度新規研究）]

類	研究テーマ名	研究期間※
A	操縦者の立場から見たAISの活用のフォローアップ検証	H23.4～H26.3
B	機関室巡回ロボットに関する研究	H23.4～H26.3
B	機関室シミュレータを用いた運航に関する省エネルギー評価について	H24.4～H27.3
C	GPSの信頼性に関する研究	H22.4～H25.3
C	熱応力による船用機関の損傷に関する研究	H22.4～H25.3
C	湾内タグボートの安全に関する研究	H23.4～H26.3
C	船員の静電防止具着用に関する実験的研究－Ⅱ	H24.4～H27.3
C	船舶機関システムの運転管理に関する研究	H24.4～H27.3
D	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究	H23.4～H26.3
D	分析機器を利用した海洋環境教育に関する研究	H24.4～H27.3
E	Engine-room Team Management訓練に関する研究	H24.4～H27.3
F	海上交通安全法に関する一考察	H22.4～H25.3
F	海難審判における過失認定のとらえ方	H24.4～H27.3
F	科学技術の進歩と海技者の責任	H24.4～H27.3
F	船員のための関係法規の流布	H24.4～H27.3
G	ジョウセフ・コンラッドの海洋作品における地政学的要素について	H24.4～H27.3

※研究期間は、重点研究は4年。一般研究は原則3年以内とする。

[共同・受託研究]

相手先	研究テーマ名
一般社団法人日本船長協会	操船シミュレータ訓練棟における調査研究
一般社団法人日本船長協会	ECDIS訓練棟における調査研究

〈研究の分類〉

- A：船舶の運航技術に関する研究（航海系）
- B：船舶の運航技術に関する研究（機関系）
- C：船舶の安全性・信頼性に関する研究
- D：海洋汚染等船舶の運航に関して発生する環境問題に関する研究
- E：船員の教育訓練に関する研究
- F：船員政策、海事法規、海事海運経済に関する研究
- G：海事思想の普及に関する研究

【平成24年度研究実施】

- 重点研究：2件
（内新規：0件）
- 一般研究：16件
（内新規：9件）
- 共同・受託研究：2件
（内新規：2件）

研究発表一覧 (平成24年度)

No.	発表タイトル	発表形式	実施日	レベル
1	パラレルメカニズムの機構解析と制御に関する研究	学位論文	H24.9.25	L1
2	港内タグボートの安全性に関する研究 (本船の離着岸操船支援時における曳船の挙動調査)	学会論文	H24.11.23	L1
3	科学技術の進歩と海技者の責任 (航海士としての自律性の養成—航海術の発達をもたらす規範意識喪失への対応—)	学会論文	H24.11.23	L1
4	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究 (太陽電池、燃料電池、及びガスタービン発電機の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究 — 太陽電池、鉛蓄電池システムの再利用との比較—)	学会論文	H25.3.31	L1
5	船員教育の高機能化に関する研究 (Study on Acquisition of Effective Arc Welding Skill For Marine Engineer)	国際学会 講演発表	H24.7.3	L2
6	船員教育の高機能化に関する研究 (船用補助ボイラの水質管理における教育分野の問題)	国際学会 講演発表	H24.7.5	L2
7	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究 (燃料電池の船舶電源への導入に関する基礎検討)	国内学会 講演発表	H24.9.19	L3
8	船舶の機関システムの運転管理に関する研究 (船用補助ボイラの水質管理基準)	国内学会 講演発表	H24.9.20	L3
9	船舶の機関システムの運転管理に関する研究 (最近の外航船舶用補助ボイラの水質管理—水質分析用ログシート見直しと標準化のために—)	学会誌	H24.5	L4
10	ジョウゼフ・コンラッドの海洋作品における地政学的要素について (コンラッド文学案内)	翻訳書	H24.5.31	L4
11	船舶の機関システムの運転管理に関する研究 (2011年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩)	学会誌	H24.7	L4
12	船員のための関係法規の流布 (海洋・海運における科学技術と国際法)	学会誌	H24.7	L4
13	船員のための関係法規の流布 (船員のための法学入門—法の基礎理解のために—)	研究報告	H25.3	L4
14	船員のための関係法規の流布 (公海上の船舶衝突における法の適用)	学会誌 協会誌	H25.3	L4
15	海上交通安全法に関する一考察 (海上安全法の現状と問題点に関する一考察—来島海峡航路および瀬戸内海のまとめ—)	研究報告	H25.3	L4
16	Stewartプラットフォームの受動的インピーダンスの解析	研究報告	H25.3	L4
17	船員のための関係法規の流布 (船員のための法学入門—法の意義の基礎理解のために—)	研究報告	H25.3	L4
18	海難審判における過失認定のとらえ方 (過失認定をどう見る —事故回避に向けた一歩—)	研究報告	H25.3	L4

発表形式	レベル	発表実績
査読付学会論文発表	L1	4
国際学会講演発表	L2	2
国内学会講演発表	L3	2
海技大学校研究報告等	L4	10
合計		18

委員等派遣実績 (平成24年度)

○財団法人海技振興センター

学会・委員会名 【活動内容】	役職
水先人養成を初めとする水先制度の施行状況に関する懇談会	委員 2名
水先人養成支援事業検討委員会	委員
次世代海技者に求められる技能及び資質の育成に関する調査専門委員会	委員
水先人養成支援特別委員会	委員
STW調査検討に関する専門委員会	委員
教材等作成検討小委員会	委員
外航船員教育連絡会議 【外航船員養成に関する諸課題について定常的な意見交換】	委員
三級水先人確保対策特別委員会	委員

○公益社団法人神戸海難防止研究会

—	理事
調査研究委員会 【海難防止における調査研究業務】	常任委員 3名
平成24年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査委員会	委員
関西電力(株)堺LNGセンターLNG船着棧に係る航行安全対策調査委員会	委員
平成24年度大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究委員会	委員
大阪港主航路工事等に伴う航行安全対策検討調査委員会	委員
平成24年度神戸大橋ライトアップに伴う航行船舶等への影響調査委員会	委員

○公益社団法人日本航海学会

理事会	理事
編集委員会 【学会誌「NAVIGATION」の発行】	委員 2名
論文審査委員会 【論文の公正な審査及び論文集の発行】	査読委員 5名
研究委員会 【航海に関する調査及び研究活動】	委員 2名

○海洋政策研究財団

「WMU(世界海事大学)友の会ジャパン」ニューズレター編集委員会	委員
----------------------------------	----

○国際船員労務協会

学会・委員会名 【活動内容】	役職
マニラにおける一般財団法人日本海事協会講師講習	講師
世界海事大学奨学生選考委員会	委員

○公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会

—	理事
国際交流委員会	委員
研究運営委員会	委員
研究委員長会議	委員
学会賞受賞審査委員会	委員
第2類及び第46期代議員	代議員
第1種研究委員会—機関第二研究委員会 【船用機器の保守・整備・取り扱い等に関する調査研究】	委員

○公益社団法人瀬戸内海海上安全協会

専門委員会 【狭水道等の航行安全の確保に関する業務】	委員 2名
坂出LNG基地計画航行安全対策検討委員会(メンブレン型LNG船の安全対策(その2))	委員

○一般財団法人日本海事協会

海技委員会	委員
-------	----

○国際海事機関

IMO第43回訓練当直基準小委員会	委員
-------------------	----

○富山商船高等専門学校

「AII SHOSEN学びのプロジェクト」に関する「第2回船橋当直ハンドブック」企画会議及び情報交換会	委員
---	----

○一般社団法人火力原子力発電技術協会

平成24年度JISB8223改正原案作成委員会	委員
-------------------------	----

11団体
延べ45名派遣

各学校の海事思想普及に関する取組 (平成24年度)

学校名	行事	実施内容
小樽校	マリンフェスタ in 小樽	・ 生徒28名、職員8名参加
		・ ノットボード作製
		・ 船で使われるロープの結び方の指導
館山校	海まちフェスタ	・ 練習船「望洋丸」による体験航海実施(4回)139名乗船
	館山自然塾沖の島探検隊	・ 練習船「望洋丸」による体験航海実施(1回)35名乗船
唐津校	海のカーニバル in からつ	・ 生徒20名、職員10名参加
		・ 練習船「あさかぜ」による体験航海実施(4回)190名乗船
		・ 小型教習艇「はまかぜ」による体験航海実施(14回)87名乗船
口之津校	マリンフェスタ in くちのつ	・ 練習船「口洋丸」による体験航海実施(1回)22名乗船
		・ ペーロン競争 本校生徒チーム準優勝
	口之津港開港450年記念事業	・ カッター模範実演 ・ 練習船「口洋丸」による体験航海実施(2回)60名乗船
宮古校	地元宮古の観光船運航	・ 地元宮古の観光船運航のボランティア 学生9名参加
	第21回宮古港ポート天国・ハーバーまつり	・ スタッフとして協力
	2012三陸シーカヤックマラソン in 宮古	・ スタッフとして協力
清水校	静岡県ドラゴンボート大会	・ 学生49名、教員3名参加
	清水羽衣レガッタ	・ 優勝及び準優勝 学生49名、教員1名参加
		・ 運営役員 学生8名、教員4名参加
波方校	波止浜湾カッターレース大会	・ 競技運営補助として協力 学生15名、職員3名参加 ・ 2チーム出場
	ロープワーク教室	・ 小中学生・一般市民にロープワークの指導
海大	市民公開講座	・ 「船長の危機管理 一何が生死を分けるか」41名参加
		・ 「再生可能性エネルギー(風力発電、太陽光発電など)の概要と船舶への利用技術など」40名参加
		・ 「海賊の変遷 一歴史上の海賊からソマリア沖海賊」40名参加
		・ 「ロボットのしくみ」37名参加
	海の月間行事	・ 練習船「海技丸」による体験航海実施(2回)93名乗船
		・ 施設開放 シミュレータ等実習機器体験・見学33名参加
	神戸港ポート天国	・ 練習船「海技丸」による体験航海実施(2回)86名乗船
神戸港カッターレース	・ スタッフとして協力	
大阪港カッターレース	・ スタッフとして協力	
第58回西日本新人カッター競技大会	・ 学生及び教員が運営として協力	

体罰防止に関する提言 〈第一次提言〉

平成25年1月に発生した体罰事案の再発防止のため、同年3月に外部有識者を委員とする体罰防止対策検討会を立ち上げた。
体罰防止対策検討会からの提言は次のとおり。

○研修等による教員の意識改革・授業力及び指導力の向上

- ・ 教員研修を再検証し、適切な指導法を体得させる効果的な研修についての検討
- ・ 教員から収集した事例(成功事例・危険事例)の共有化及び教員研修への有効活用

○教員同士の連携・組織的な教育指導

- ・ 問題の早期発見に向け、教員同士が情報交換・意思疎通を図れる体制の強化
- ・ 管理職員による、教員が気軽に上司に相談できる体制への配慮

○生徒・学生との相互理解及び信頼関係の構築

- ・ 投書箱の運用の見直し、生徒・学生の視点による改善策の検討
- ・ スクールカウンセリング体制の見直し、改善策の検討
- ・ 生徒・学生と話す機会を拡大するための方策の検討

○組織的改革

- ・ 教員の負担軽減にも配慮した、教員の採用及び育成に係る総合的なキャリアパスの構築
- ・ 本部の研修実施体制や各学校へのサポート体制の強化についての再検討

○その他

- ・ 教員への意識調査の実施及び結果を踏まえた対策の検討